

日本語の自動詞・他動詞の選択条件

——習得状況の分析を参考に——

守屋三千代

0. はじめに

小稿のねらいは、主に中級の前半から中頃程度の日本語学習者を対象としておこなった、動詞の自他の使い分けに関するアンケート調査の結果に基づいて、自他習得のむずかしさが、日本語の自他動詞のどのような用法上の特徴——特に使いわけの条件——に由来するのかを分析することにある。

I. 調査方法とその内容

(1) 調査対象(被験者)

調査は、(2)のようなアンケートによっておこなった。小稿では被験者の初級での機関や教科書、および学習方法などには特に注目しない。その主な理由は、昨今では学習者の教科書も多種にわたり、一定の傾向がつかみにくいこと、特に海外で初級を学んだ場合、学習者が必ずしも教科書名を覚えていないこと、一冊の教科書を通読していないケースがあること、担当教員によって同じ教科書でも扱い方に相違がでるため、特定の教科書と習得状況との相関がつかみにくいことである。また、学習期間についても回答を期待しなかったが、これも習得状況は学習期間とは必ずしも比例しないことによる。そのかわりに、対象者を初級および中級前半程度がほぼおわっているととらえられる、大学の学部1,2年生、およびそれに準ずる研究留学生に限った。これは、ひとつにはレベルの下限が比較的特定し

やすい点と、まとまったアンケート調査がおこないやすいという便宜的な理由にもよるが、同時に彼らの場合、予備教育の学習者に比べ、初級を終了しコミュニケーションにさほど不便を感じなくなり、一種の「文法離れ」の現象をおこしている様子が観察されるためでもある。ここでいう「文法離れ」とは、予備教育の段階に比べて文法的なモニター機能よりも、コミュニケーションの実現が優先されることにより、文法的な正確さについて神経質にならなくなった状況をさす。すなわち、大学生となって日常会話にも不便がなくなったレベルでは、かえって以前よりも不正確な発話(話し、書き)がめだつことがあり、この場合において学習者が自分なりにつくりあげ、了解している文法規則——中間言語——がより現れやすいと考えられる。なお、この文法離れの現象は、3,4年生においてさらに顕著にみられる可能性がある。

今回は諸先生方(IIIに記す)の御協力をえて、中国語母語話者の被験者(以下中国語系)60名、韓国語系49名、英語系(母語、第一言語の場合に限る)21名について調査を行うことができた。英語系については特に十分な数の被験者について調査ができなかったが、興味深い結果が得られているので、併記することとする。

(2) 調査方法と内容

調査は次のような調査表を授業時に配付し、教師が読みあげるのを聞きながら、学生がその場で回答する、というやり方で行った。

～調査表：動詞の自他～

母語(第1言語)[] 語・学習機関名[] 大学[] 年
レベル(現在所属のクラス名)[] ・日本国内での学習歴[] 年

♪[] に「を / が」どちらかの助詞に○をつけて下さい。

♪()内の動詞のよい方に○をつけて下さい。

(両方ともよいと思う場合は、2つに○をつけて、助詞と動詞を線で結んで下さい。)

例) 私の部屋からは、富士山[を / が]よく(見 / 見え)ます。

- ① ドア[を / が]風でボタンと(閉めた / 閉まった)。
- ② 「きのうのパーティはどうでしたか? たくさん人[を / が](集め / 集まり)ましたか?」「ええ、かなり来ましたよ」
- ③ 「何をしているの?」「みそ汁[を / が](あたためて / あたためて)いるの」
- ④ 「この時間じゃ授業はもう(始めて / 始まって)いるな。ああ、今日も遅刻だ」
- ⑤ 「さっき3回もあなたに電話[を / が](かけて / かかって)きましたよ」
- ⑥ 「おや、メガネ[を / が](かえ / かわり)ましたね。よくお似合いですよ」
- ⑦ 「テーブルにそのコップと皿[を / が](ならべて / ならんで)ください」
- ⑧ 「もしもし、背中に何か(つけて / ついて)いますよ。とってあげましょう」
- ⑨ 「だれがこのカップ[を / が](割った / 割れた)の?」「わかりません。私が見た時は、もう(割って / 割れて)いたんです」
- ⑩ 「よく(冷やした / 冷えた)ビールがありますよ。一杯、いかがです?」
- ⑪ 「髪[を / が](のばし / のび)たから、カットに行かなければなりません」
- ⑫ 「うっかりさいふ[を / が](落として / 落ちて)しまっただね、今日はお金が全然ないんだ」
- ⑬ 「君の読みたがっていた本、(見つけた / 見つかった)?」「うん、図書館にあった」
- ⑭ 「そのTシャツ、どうしてそんなに(汚して / 汚れて)しまったの」
- ⑮ 誕生日にきれいなバラの花がたくさん(とどけて / とどいて)、大変うれしかった。
- ⑯ (焼き肉店で)「さあ、(焼いた / 焼けた)肉から、順番に召し上がって下さい」
- ⑰ (バイクの後ろに乗る人に)「いいですか? しっかり(つかまえて / つか

まって)いて下さいよ」

- ⑩ 「井上先生の授業は休講だよ」「(助けた / 助かった)！今日は予習してないんだ」
- ⑪ 「私の大切な物は去年の火事でみんな(燃やして / 燃えて)しまいました」
- ⑫ 「卒論のテーマは？」「おかげさまで、やっと(決めました / 決めました)」
- ⑬ そのボタンを押すと箱のふた[を / が](開けて / 開いて)、中から人形[を / が](出して / 出て)来ます。
- ⑭ 疲れ[を / が](とる / とれる)には、温泉に(いれて / はいって)、全身[を / が]よく(あたためて / あたためて)、たっぷり眠るのが一番。とにかく体[を / が]十分(休める / 休まる)こと。そうすれば、疲れは必ず(とる / とれる)ものです。
- ⑮ まずフライパン[を / が](あたためて / あたためて)、油[を / が](いれたら / はいったら)、卵[を / が](割って / 割れて)、フライパンに(いれます / はいります)。卵[を / が](やいたら / やけたら)、皿に(のせて / のって)、できあがりです。

II. 調査の集計結果と分析

以下、調査の集計結果を母語別に示し、正答に★、ほぼ正答として認められるものに☆を付す。ただし、例文によっては回答が複数あることを被験者にあらかじめ言うてあるため、重複した回答がままた見られる。(ただし、インタビューした限りでは、多くの被験者は自信のある回答だけに○をつける方がよいと考えていたようである。)調査結果の「総数」は重複した回答を含むのべ数であり、重複した場合にのみ内訳(重複分)を示す。例えば、①の中国語系の回答は、「風でドアをしめた」に○をつけた者は全部で11名おり、そのうち、9名はそこだけに○をつけ、残り2名は「風でドアがしまった」もよいと複数回答していることを表す。また「風でドア

がしまった」に○をつけた者はのべ48名、そのうちの2名はさきの「ドアをしめた」との複数回答者2名であることを表す。

なお、全体は(1)自動詞系(自動詞を選ぶべき例文。①②④⑤⑪⑬⑮⑯⑰⑲), (2)他動詞系(③⑦⑫⑬), (3)自他動詞両用系(⑥⑧⑩⑭⑱), (4)文章レベルの例(自動詞系, 他動詞系が複数含まれる⑨②②②③)と整理できるが、紙幅の都合上(1)~(3)を複合した(4)については小稿では割愛し、以下(1)~(3)の各項目ごとに集計および分析結果を述べる。

(1) 自動詞系：分析結果

ここでは中国語系が韓国語系にくらべ、①②⑤⑪⑮においてより多く誤用が見られた。①は作用(ドアが閉まること)が人為的、意図的でなく「風で」実現していることが例文から明らかである点で、もっとも自動詞が選ばれやすい例であり、実際自他の区別をもつ韓国語系では誤用が目立って少ない。これに対し、自他の形態的対立をもたない中国語系では誤用が見られる。また数が少ないので参考程度ではあるが、英語系でも同様の傾向を示している。これは母語の干渉をうけた誤用現象かもしれない。なお、このようにイベントの成り立ち方が本来的に非人為的な場合は自動詞を選択するという条件を条件-1.とする。

次に、②はイベント(人が集まること)が人為的になされたとしても、その主体を話し手が特定できない場合や、特定する必要が特に認められない場合であるために自動詞が選ばれた例である。この選択条件を条件-2.とする。この場合、行為の人為性つまり意図性が強調されず、従って実行自体よりも、結果に視点がおかれることを含意する。②は主体が特定されない点で条件-2.をみたすが、人為的である分、①に比べてやや自動詞が選ばれにくい可能性がある。⑮も同様であるが、この場合はむしろ「花がとどけて」の形が誤用であることに気づくかどうかが問題となる。④ではやや韓国語系でも誤用が見られる。やはり人為的であり(条件-1.に反し)ながら主体が特定されていない(条件-2.をみたす)ことと、さらに結果相をあらわすために自動詞が選ばれる例である。このように結果相に視

II-(1). 自動詞系：集計結果

	中国語系(60名) 総数/内訳(重複)		韓国語系(49名) 総数/内訳(重複)		英語系(21名) 総数/内訳(重複)	
① 風でドアをしめた	11	9 -2)	1		6	3 -3)
★風でドアがしまった	48	46 -.	48		16	13 -.
風でドアをしめた	0		0		1	
風でドアがしめた	3		0		1	
② パーティ人をつつめましたか	11	7 -4)	0		4	1 -3)
★パーティ人があつまりましたか	49	45 -.	49		19	16 -.
パーティ人をつつめましたか	1		0		0	
パーティ人があつめましたか	3		0		1	
④ もう授業ははじめている	9		4		4	
★もう授業ははじまっている	51		45		17	
⑤ さっき電話をかけてきた	41	40 -1)	12	11 -1)	13	11 -2)
★さっき電話がかかってきた	17	16 -.	38	37 -.	9	7 -.
さっき電話をかかってきた	3		0		1	
さっき電話がかけてきた	0		0		0	
⑩ 髪をのびしたからカットに	7	4 -1) (3-	5	4 -1)	5	3 -2)
★髪がのびたからカットに	44	41 -.	45	44 -.	13	11 -.
髪をのびたからカットに	2	1 -.	0		1	
髪がのびしたからカットに	10		0		4	
⑬ ?さがしていた本みつけた?	26	25 -1)	23	22 -1)	16	15 -1)
★さがしていた本みつかった?	35	34 -.	27	26 -.	6	5 -.
⑮ 花がとどけてうれしかった	13		4		7	
★花がとどけてうれしかった	47		45		13	
⑯ 焼いた肉からめしあがって	37		30		15	
★焼けた肉からめしあがって	23		19		6	
⑰ 助けた!	2		1		5	
★助かった!	58		48		15	
⑳ ?テーマやっときめた	40	39 -1)	26	23 -3)	14	12 -2)
★テーマやっときまった	21	20 -.	26	23 -.	8	6 -.

点がおかれる場合の自動詞選択条件を条件—3.とする。ただ、④では「もう始めている」「もう始まっている」がともに結果相を表すため、正答をえるには、「授業は始めている」では対格が対比的な意味をもつと、この場合は不自然となることに気づく必要がある。

⑤は②と同様のことがいえるが、ここでは中国語系、英語系で、誤用の他動詞の方が正答をしのいで選ばれている点に注目される。これは⑤の電話が人から人への直接的なイベントである点で、②⑤以上に人為性が高く、主体が特定できなくても意図的な感じが強いので、他動詞を用いると被験者が判断したためかと思われる。このことは、本来意図性が強い行為でも、日本語では話者が主体の特定やその主体の行為の意図を明示することに視点をおかないことがあり、その場合は事実に関係なく自動詞が選ばれることを示している。

⑪は少々難しい例である。それはイベント「髪が長くなった」が人為的(のびした)、非人為的(のびた)の、二つの場合の結果があるためで、⑪の場合は文意から条件—1.にしたがって「のびる」を選ぶ必要がある。中国語系で格助詞「が」は正しく選んでいるが、「のびる」「のびす」いずれの形をとってよいかで混乱しているように見える。これは単に形式の混乱のためか、あるいは「髪—長くなった」という命題を日本語としてどう表現しわけたらよいかかわからなかったためか、簡単に判定できない。

⑫は⑤と同様、中国系、韓国語系ともに誤用が正答をしのいで多くあらわれた例である。この場合「やける」という作用は明らかに人為的に起こされたものであり、動作主体は話者であると自然に特定でき、従って条件—1, 2. にあてはめて、他動詞が選ばれると考えることができる。しかし、実際にはこの例のように自動詞が選ばれるのであって、それは人為的、意図的であっても、さらに動作主体の意図や動作のとりかかりよりも対象の変化結果(ここでは誰が焼いたかよりも、食べてよいように焼けたという肉の状態)に視点が優先的におかれる場合は、自動詞が選ばれるという条件(条件—3.)が機能することがわかる。ここにおいて韓国語系でも

誤用が目立って現れる点は興味深い。

⑩ は明らかに誰か人物が意図的に話者を助けたわけではなく、また現在すでに結果の状況にあると認識したという表現であるため、条件1, 2, 3から自動詞が選ばれることは明らかである。ただ、⑩は①②よりも確かに全体に正答率が高いが、インタビューをした限りでは、こうした条件の理解から正答がえられたというよりも、むしろ一つのいいまわしとして「助かった」が定着しているのが理由のようである。

⑬⑭は上の例と少々異なった事情がある。ともに人為的で、主体は特定され、意図性も明確なので(条件1, 2に反する)、「本を見つけた」「テーマを決めた」の他動詞表現が選ばれやすいものであり、調査結果もそれを示している。しかし実際には日本語ではこの場合、ほぼ自動詞表現が選ばれる。これは、主体の懸案の問題(探していた本がみつかる、テーマが決まる)が解決したという点で一種の主体にかかわる変化であり、結果相に視点があるという条件1-3で自動詞が選ばれたものと解釈できるかもしれない。この自動詞表現の方が日本語としてより自然であるのは、他動詞では主体の意図性、特定性、責任性などが強調されて積極的に本を見つける行為やテーマを決める行為を主体が行ったかどうかを問題とし、必ずしも結果的に見つかったことを問題にしていらないようなニュアンスがつくのに対し、自動詞表現では結果に視点がおかれるため(守屋1993)あたかも本の方から現れたような、テーマが自然に落ち着くところに落ち着いたような感じとなるためかもしれない。これは日本語では「(~ヨウニ)ナル」表現が好まれる例だともいえようが、この選択条件は迂言的、婉曲的なものを指向した文化的な条件であり、今まで見てきた条件の理解だけでは、日本語の自他の十分な使い手とはなれないことを暗示している。

こうした迂言的な自動詞表現の選択は実は自他の選択そのものを決定する条件一視点一に深くかかわっている点で注目する必要がある。例えば①の「ドアが風で閉まる」場合は自動詞が自然に選ばれるが、仮に人が怒りのあまり音をたててドアを閉めた場合、話者がその人物に、つまりその

意図や感情のありように視点をおけば、「(彼は)ドアを閉めた」という他動詞表現をとるが、閉められた側としての話者の感情に視点をおいたり、あるいはドアが閉まったこと自体のもつ含意(例えばこれで二人の関係が終わるといったような)を表現したりする場合は、「ドアは閉まっ(てしまった)」という自動詞表現が選ばれることになる。つまり自他の選択は、イベントが本来人為的、意図的な行為によって成り立つかどうかという事実から単純に決まるのではなく、実際には話者の認識や表現意図にそって行われているのである。小稿ではこのテーマに深く立ち入ることができないが、少なくとも事実関係からすれば他動詞が選ばれてもよいところで、話者の表現意図に応じて任意に自動詞が選ばれる条件(条件—4)があることは指摘できよう。あわせて、このような他動的事態であっても話者の認識と表現意図次第で自動詞が選ばれる現象は、日本語の動詞の自他の使い分けを習得する際のポイントとなることを指摘しておきたい。

(2) 他動詞系：分析結果

他動詞系の集計結果では自動詞系の場合と対照的に中国語系、韓国語系で誤用の分布に大きな違いがでていない点が注目される。この点は逆に中国語、英語系の学習者にとり、自動詞表現を選択することがむずかしいことを示していると思われる。

③ は正答率が高いが、それは「何をしているの?」「～あたためているの」という対話から、人為性(cf. 条件—1)、主体の特定性(cf. 条件—2)、進行相(cf. 条件—3)という他動詞の選択条件が明らかなことからもうなづける。ここれに対して、⑦では「～してください」というように条件—1, 条件—2をみたしているのに、誤って「ならんでください」が選ばれたのは、「を」格を選んでいることと考えあわせると、自動詞の習得に関し形式的な混乱があるためと考えられる。

⑫の誤用があらわれたのは「さいふが落ちる」という現象が、意図的には行われにくい点と、文の構造上主体が文中に現れない点、「～してしまった」という結果相にかかわる表現を伴っている点で、自動詞がえらば

II—(2). 他動詞系：集計結果

	中国語系(60名) 総数/内訳(重複)		韓国語系(49名) 総数/内訳(重複)		英語系(21名) 総数/内訳(重複)	
③★みそしるをあたためてるの	57	56 -1)	48		16	
みそしるがあたたまってるの	1	0	0		1	
みそしるをあたたまってるの	3		1		4	
みそしるがあたためてるの	0		0		0	
⑦★皿をならべてください	46	45 -1)	45	44 -1)	16	15 -1) (1-
皿がならんでください	3	2	1	0	1	0
皿をならんでください	11		4		5	4
皿がならべてください	1		0		0	
⑫★さいふをおとししてしまってね	37	35 -2)	47		10	
さいふがおちてしまってね	14	12	1		7	
さいふをおちてしまってね	0		1		4	3 -1)
さいふがおとししてしまってね	11		0		1	0
⑮ しっかりつかまえていてくだ さい	19		7		12	
★しっかりつかまえていてくだ さい	41		42		8	

れやすいことが一つの理由として考えられる。一方、「さいふが落として」の誤用も同様に選ばれているが、これも「さいふを落とした」では意図的に落とした感じとなると被験者が考え、それを避けようとして生じた可能性がある。もちろんこれらの誤用は、単に形式的な混乱によるとも考えられるが、非意図的で意志に反していても、日本語では主体の責任の範囲での行為であれば他動詞を選ぶという条件(条件—5)があり、その点の理解が不足したためとも思われる。

⑮の誤用は、自他の問題というよりも二種類の他動詞のうち一方を選択する問題である。すなわちある(逃げる)ものをとらえる時は「～をつかまえる」、主体が自分の体勢を安定させるために、固定したものをつかんではなさない時は「～につかまる」を用いるという使い分けを問う例である。インタビューによると、この語の使い方は要注意だという知識をもっ

ている者も少なくなく、難問のわりに比較的正答がよく現れているのも、そのためであると思われる。

(3) 自他動詞系：分析結果

このグループに共通する特徴は、結果相にかかわること、また ⑥「かわる／かえる」⑧「つける／つく」⑩「ひやす／ひえる」⑭「よごす／よごれる」⑰「もやす／もえる」がいずれも変化動詞であること、しかもあらかじめ格助詞によって補語の主格、対格の別が明示されていないことである。また、調査結果からは、他動詞系と同様、自動詞系と異なり、回答の傾向に母語による大きな差があらわれていないこと、ただし、自他動詞にまんべんなく回答が分布しているが、双方ともよいという重複した回答が ⑥ 以外は少ないことなどが指摘できる。

⑥ は人為的(cf. 条件一1)、主体の特定可能性(cf. 条件二2)に注目すれば

II—(3). 自他動詞系：集計結果

	中国語系 (60名) 総数/内訳(重複)		韓国語系 (49名) 総数/内訳(重複)		英語系 (21名) 総数/内訳(重複)	
⑥★メガネをかえましたね	36	28 (-8)	38	22 (-16)	18	14 (-4)
★メガネがかわりましたね	26	18 --	27	11 --	4	0 --
メガネをかわりましたわ	4		0		2	
メガネがかえましたね	2		0		1	
⑧☆何かつけていますよ	6		1		6	5 (-1)
★何かついていますよ	54		48		16	15 --
⑩★冷やしたビール	36	35 (-1)	29	26 (-3)	9	8 (-1)
★冷えたビール	25	24 --	23	20 --	13	12 --
⑭★どうしてそんなによごしてしまっ た	16		15		8	
★どうしてそんなによごれてしまっ た	44		34		13	
⑰☆火事でみんなもやしてしまっ た	23		5		5	4 (-1)
★火事でみんなもえてしまった	37		44		17	16 --

他動詞が選ばれ、これらよりも結果に視点がおかれれば(条件-3)自動詞が選ばれるが、このように結果に視点をおくことに自由なのは、動詞が変化動詞であり、しかも聞き手である主体にかかわる変化を表す文だからである。このことは「私、さいふをおとした」は話し手自身の責任の範囲で他動詞が選ばれ、「私、さいふがおちた」は不適切となるが、主体が聞き手である場合、「君、さいふがおちたよ」が可能になることと同質である。

⑧ もこれと同様であるが、⑥ では「メガネをかえる」ことが主体の意図によることに不自然さはなく、そのため「メガネがかわる」よりもむしろ自然であるのに対し、⑧ は「何かおかしなものをつける」には意図的な解釈ができないため、「ついている」の方が自然な感じとなる。ここで調査結果をみても、⑥ ⑧ とともに自他の例が選ばれているが、⑥ では他動詞「かえる」がやや多く選ばれ、⑧ では自動詞「ついている」がずっと多く選ばれており、この点意図性に関して自他の使いわけがよく習得されているように思われる。

⑭ も⑧ と同様であるが、⑭ の他動詞は⑧ と違い、条件-5の主体の意図には反するが主体の責任の範囲にあるために選ばれる他動詞であり、⑧ に比べ、他動詞がより積極的に選ばれており、この点も「さいふを落としてしまった」に正答が比較的多かったこととあわせて、よく習得されているようにみうけられる。

⑲ はこの責任の範囲にかかわる他動詞の選択状況をさらに問うものであり、ここでは中国語系で他動詞を選ぶ回答が少々多くなっているが、ほぼ⑧ ⑭ と同様の傾向を示しているといえよう。

⑩ は連体修飾の場合であり、従って主体が明示されなければ、もともと意図性は強くうちだされないため、自他いずれでも大きな違いは生じにくい。ここでは上記の例と異なり、回答に一定の傾向がなく二つにわかれ、しかも重複した回答例が少ない。さきの例では微妙に自他を選びわけている様子からすると、必ずしも一方だけが正しいと被験者が考えた結果とは考えにくい、いずれにせよ、双方積極的によしとする決めてがないのだろう。

⑩ だけでなく全体に自他ともに違いを認めたいうえでよしとする回答が少ない。初、中級レベルではこの程度の習得で十分なのかもしれないが、ニュアンスの違いの理解までが要求されるような上級レベルの読解や表現では、こうした細かな面も習得を図る必要が生じると思われる。

III. おわりに

以上、今回の調査に基づく限りでは、動詞の自他の選択のむずかしさは、程度の差はあれ、自動詞選択のむずかしさにあると言えよう。ここで得られた自動詞選択の条件は、次のとおりである。調査結果からすると、1から4へと次第に習得が難しくなっていく。

条件—1. イベント(事態、出来事)が非人為的に成立した場合。

条件—2. イベントが人為的に成立した場合でも、行為の主体が特定できない場合。

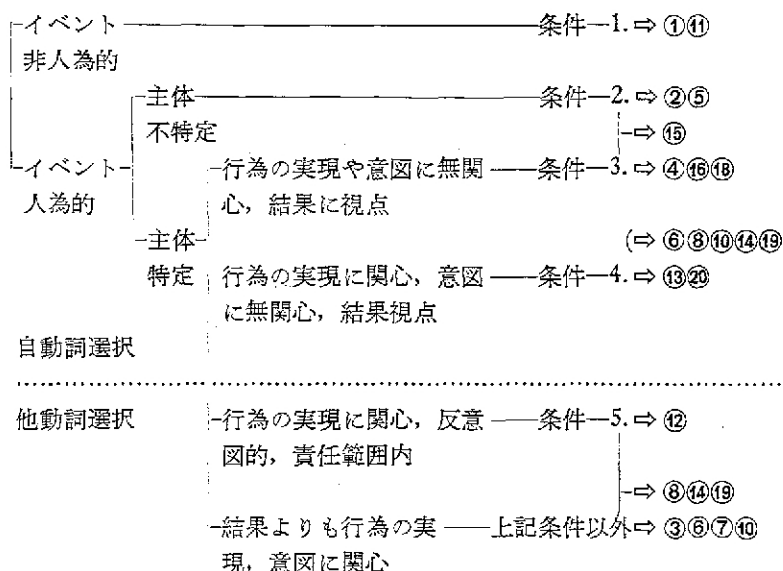
条件—3. イベントが人為的に成立し、かつ行為の主体が特定できても、行為の実現、あるいは意図性の存在よりも結果に話者の視点がおかれる場合。

条件—4. イベントが人為的に成立し、かつ行為の主体が特定でき、さらに成立自体に視点がおかれていても、話者が主体の意図性に視点を置かず、事態の成立そのもの、およびその結果に注目し、主体ぬきで事態を表現する場合。

これに対して、他動詞選択の条件は、上記の自動詞選択条件と裏表の関係にあるが、少なくとも次の点をつけくわえる必要がある。

条件—5. イベントが非意図的に成立した場合でも、主体のテリトリ—、責任の範囲でおきた場合は、他動詞を用いることがある。このことを表にすると以下のとおりである。それぞれで選ばれる調査表中の例文番号を付記する。

今回は調査表による誤用分析という方法をとって、自他習得のむずかしさを観察し、そこから日本語の自他の特徴をさぐることを試みた。こうし



た調査結果の分析は、ひとつまちがうと「あとからつけた理屈」にすぎなくなるおそれが大である。従って、上にあげた条件を学習者に示した上で追跡調査をおこない、いま一度検討しなければならない。

今後は広く文法習得という角度から、文法記述とは何かという視野に立って、話者が認識したイベント、事態に応じて日本語の形式をいかに選ぶかを習得するには、どのような情報を学習者に与えたらよいかを考える必要がある。その点で、アンケート調査による分析は、学習者の言語的な状況はある程度把握できても、言語的な処理能力をブラックボックスとして扱う以上のことのできない点で、こころもとない面がある。AIなどの機械に頼らずにこの点を記述するにはどうしたらよいか、よきアドバイス、アイデアを賜りたい次第である。

最後に、今回の調査について、調査表の段階から御批判やさまざまな御指摘をくださったり、実際に教室で調査に御協力下さった早稲田大学日本語研究教育センターの先生方(村上治子先生、中沢佐企子先生、星崎幸子

先生、安斎幸枝先生)ならびに、調査に参加、協力して下さった早稲田大学日本語研究教育センター、慶応大学、明治大学、横浜市立大学、国士館大学、創価大学の留学生諸君に心より御礼申し上げます。

参考文献

- 1981 池上嘉彦『「する」と「なる」の言語学』大修館書店
- 1985 宮島達夫「ドアをあけたが、あかなかった——動詞の意味における〈結果性〉——」『計量国語学』14巻8号
- 1975 森田良行『誤用文の分析と研究』明治書院
- 1983 森田良行『日本語の表現』創林社
- 1987 森田良行「自動詞と他動詞」『国文法講座 6』明治書院
- 1993 守屋三千代「手続きの知識の文章—料理文—の示唆するもの—変化・動作と動詞の自他との相関——」『講座日本語教育』早稲田大学日本語研究教育センター
- 1979 島田昌彦『国語における自動詞と他動詞』明治書院
- 1982 寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味 I』くろしお出版